TRIAL

Retail Ai

トライアルグループの IT ソリューション
～IT の力で小売を変革する～

リテールAIでお買い物体験が変わる

トライアルだからこそ実現できる最先端のリテールDX

トライアルは「ITの力で流通を変える」を目標に掲げ、
さまざまなテクノロジーを用いて、
お客様により良いお買い物体験を提供できるよう努めています。
40年来変わらぬ姿勢です。

データとIoTを駆使する力

①リテールDX(スマートストア)事業

小売業向けIoTデバイスの開発や
サプライチェーンにおける
各種ソリューションの提供







×

効率化された店舗網でモノを流通させる力

②流通小売事業

食品を中心とした総合品揃え型の
ディスカウントストア店舗の運営





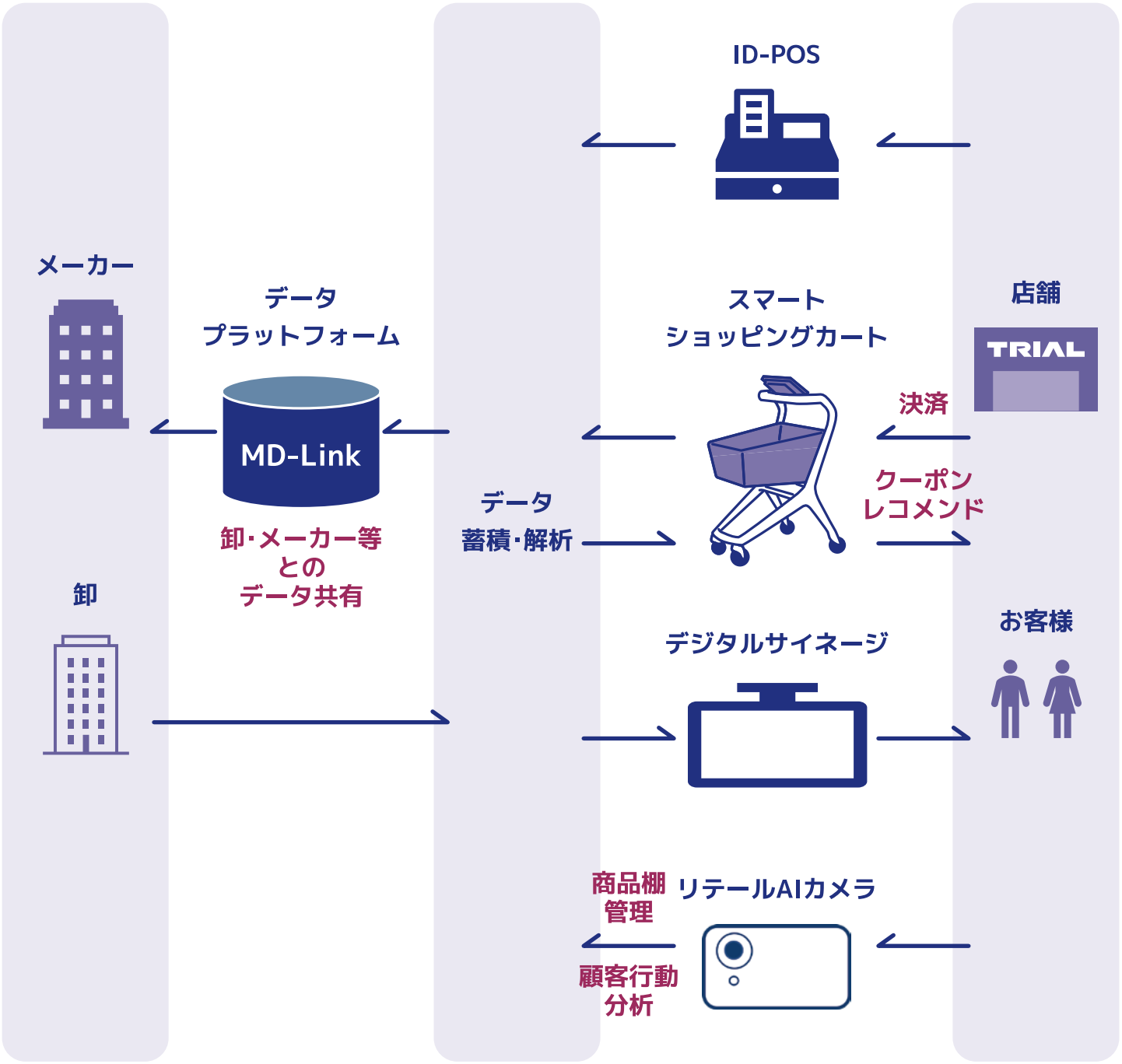
売上高
5,227
億円
（2021年3月期）

店舗数
271
店舗
（2022年5月1日現在）

**スマート
ストア数**
71
店舗
（2022年5月1日現在）

トライアルのスマートストア❶

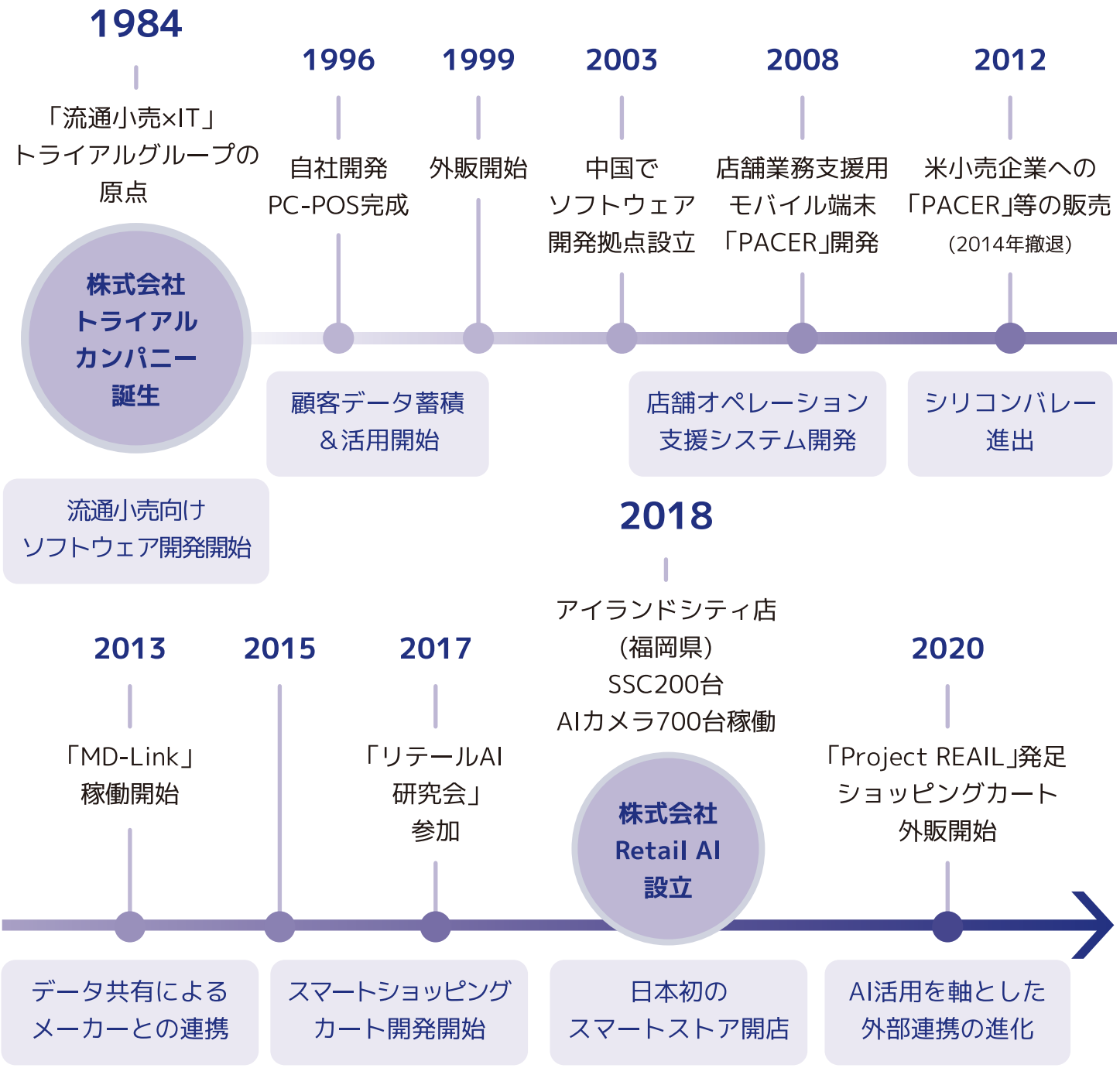
データを収集･蓄積･解析･共有することで売場の最適化やお客様への
新しいお買い物体験の提供を行っています。



トライアルのスマートストア❷

なぜ小売企業であるトライアルに
データ活用やIT機器の開発が可能なのか？

トライアルが「リテールDX」を行えるのは、祖業のひとつにITがあり、
長年にわたってIT投資を続けているからです。
シリコンバレーに拠点を構え、自社開発の店舗業務支援用モバイル端末
「PACER」などのプロダクトを米小売企業に販売していたこともありました（撤退済み）。
このように積極的な「流通小売×IT」の歴史が、トライアルの強みであり個性です。



Quick Facts

スマートショッピングカート(SSC)



スキャン漏れ防止
センサーによるスキャン漏れ
防止機能搭載

着脱式バーコード スキャナー オプション
重い･大きい商品を持ち上げ、
簡単にバーコードの
スキャンが可能

タブレット
スキャン済みの商品データ
(商品名､値段､個数)や合計金額を表示
お客様の購買情報等に合わせて
レコメンドやクーポンを表示

一体型バーコード スキャナー
商品スキャン､決済等で利用
スキャン後そのまま収納部へ
商品を入れることで
シームレスなお買い物体験が可能

磁気カードリーダー オプション
外付けのカードリーダーで
磁気カードの会員カードでの
ログインも可能

収納部
まとめ買いにも
対応可能な
大容量デザイン
センサーによるスキャン漏れ
防止機能搭載

バーコードリーダー
プリペイドカードや商品の
バーコードをスキャン

充電
ネスティング時の自動充電により、
店舗オペレーション負荷を低減
省スペース設計
(最大20台まで接続可能)



プトライアル専用の
プリペイドカードをスキャンし
会員情報をSSC に登録



商品のバーコードを
リーダーにかざしてスキャンし
商品をカゴ に入れる



SSC専用の決済ゲートを通過し、
自動発行の
レシートを受け取る

導入店舗	導入台数	マンスリーユーザー	利用率	レジ人時削減	来店頻度向上	利用者年代構成 2人に1人は50歳以上 シニア層は36%
58	6,019	985,000	41.2%	20% ↓	13.8% ↑	51%

Quick Facts

AIカメラ



欠品を防止

万引きの防止

在庫の売れ残りや
廃棄ロスを削減

棚割を最適化

顧客行動分析により
売り場のレイアウトや
陳列内容を改善

商品の陳列状況確認

顧客行動分析

店舗内マーケティング

店舗数

74店舗

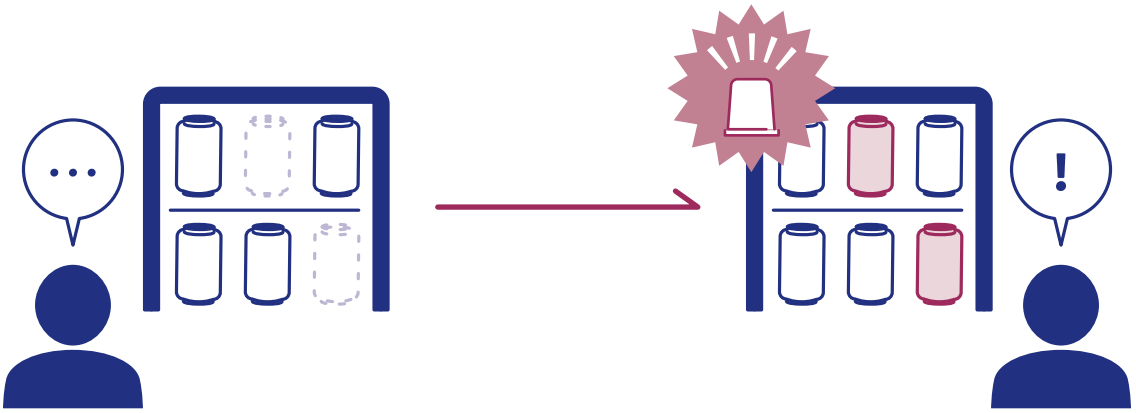
導入数

約4,000台

機器導入で変わる店舗運営❶

1.欠品検知　チャンスロス防止

AIカメラが商品棚を監視し、商品がない部分（欠品面積）を算出して売り場の状況をスコア化。一定のスコアを下回ると、バックヤードにアラートを発出して補充を促します。これにより、チャンスロス（販売機会の逸失）を防ぐことができます。



従来は･･･

決まった時間に補充作業をおこなうので、タイミングによってはお客様がほしい商品を買うことができない

欠品アラート

バックヤードに補充を促す通知が伝達され、補充商品がすぐわかる

2.お客様と商品のマッチング精度向上

お客様が情報を得る媒体の変化や、お客様のニーズの多様化などのため、従来のマーケティング手法だけでは、お客様との商品のマッチングが難しい状況です。
その解決にも、リテールＡＩが力を発揮します。
データに基づく売場の改善や、パーソナライズされた情報の発信が可能です。



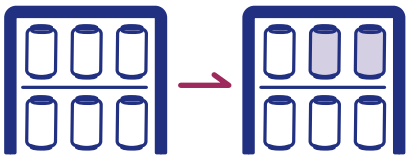
お客様が情報を得る媒体の変化や、
お客様のニーズの多様化への対応

利用者の属性情報や閲覧･購入履歴を
もとにした、ECのマーケティング

機器導入で変わる店舗運営❷

3. IOT機器・ID-POSデータ等を活用し、“欲しいものが見つかる”売場に

棚割改善



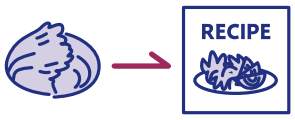
お客様の棚前行動を分析した
データ等をもとに、棚割
(品揃えや陳列方法) を最適化

レコメンド・クーポン配信



お客様の属性情報や購買履歴、
SSCでスキャンした商品情報
などをもとに商品のおすすめや
お得なクーポンを配信

レシピ提案



SSCでスキャンした食材を
使用したレシピを配信

4. コスト削減、省人化によるリソース再配分

スマートショッピングカートやリテールAIカメラの導入により、
限られた人員での店舗運営が可能になります。
これにより、経費や人員などのリソースをより生産性の高い部門に再配分し、
「お客様に良い商品を安く提供する」ことを更に推し進められます。

従来の業務(一例)

レジ打ち



目視での
売場確認



コスト削減

省人化

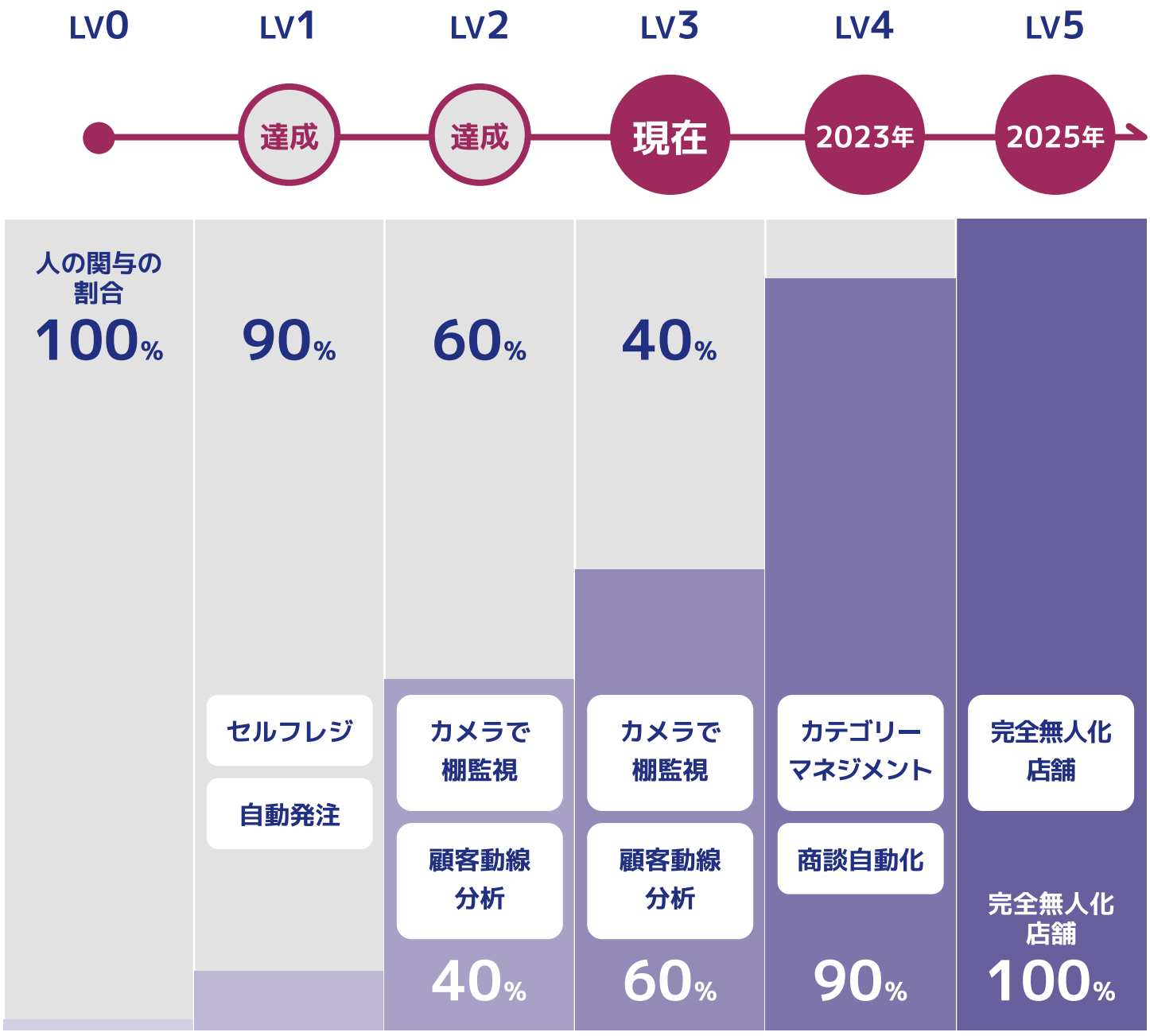
リテールAIの技術導入

リソース再配分で
生産性UP



リテールAIレベル5への道

トライアルは、リテールAI技術を用いることによって、限られた人員でも効率的な店舗運営が行えるようにし、「安くて良い品を、お客様が満足して購入していただける仕組み作り」を進めています。店舗オペレーションにおけるリテールAI技術の適用範囲は段階的に、着実に広がっています。



“日本初”リテールDX開発拠点

リモートワークタウン ムスブ宮若

トライアルと宮若市が協働して推進する地方創生･まちづくり構想です。
『リテールDXの拠点づくり』を目指し、
リテール企業とメーカー共同で実証実験を行います。

MUSUBU AI
AI開発センター
購買行動データ分析



MEDIA BASE
スマートストアの
メディアコンテンツ作成



IoT LAB
IoT開発センター



SuC宮田店
スマートストア
POC/データ取得



ムスブ宮若各施設紹介



TRIAL IoT Lab

旧宮田西中学校の校舎をリノベーション。最先端のIoT技術の開発、高度化を図る場所として、デバイス開発センターの機能を備えています。
今後はトライアルとお取引のあるメーカーのエンジニアメンバーも招聘し、スマートショッピングカートをはじめ、リテールの技術革新を進めて流通革命を起こす拠点となっていきます。



MUSUBU AI

旧吉川小学校の校舎をリノベーション。AI研究開発者が自由かつ快適に研究開発に打ち込める環境を整えました。また、サテライトオフィスやプロジェクトルームを備えることで日本中のみならず世界中と繋ぎ、距離による障壁をなくしております。首都圏と世界を繋ぐ、技術開発の強力な地場となっています。今後は“知のオープン化”、教育機関と連携した将来の種撒きを行う施設として活用いたします。



MEDIA BASE

旧笠松小学校の校舎をリノベーション。ショッパーマーケティング実現のため、店頭のデジタルサイネージで放映したりSNSで使用したりするコンテンツの作成や、情報発信をおこなう基地です。

最先端スマートストア紹介

トライアルGO脇田店

福岡県宮若市との官民連携協定による共同事業において、最先端のIT技術を導入した
次世代型スマートストアとして「トライアルGO脇田店 in みやわかの郷」を
4月20日(水)にオープン。





日本初酒販売の年齢確認不要
とする24時間顔認証決済



商品のスキャン漏れを防止する
自動検知アラーム装置搭載の
次世代型SSC



“世界初”カメラと電子棚札が
連動する「自動値下げ」

トライアルのAIは“店頭”で進化する

永田 洋幸　メッセージ

トライアルグループは長年、流通業界のDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組んできました。

“優れたテクノロジーが世界を変える”と思われがちですが、新型コロナウイルス感染症をはじめ様々な社会課題をテクノロジーそのものが解決することはできません。現場で実際に活用されて初めて、技術やデータは価値を持ちます。

現時点で、スマートショッピングカートやAIカメラといったIoT機器を数千台規模で運用している小売企業は、世界でも我々だけだと自負しています。





実店舗で実証実験を行うことで知見が蓄積され、その知見が更なる技術向上を実現しｍ粟田志位技術がまた店舗に導入されるー小売部門とIT部門が一体となって「流通情報革命」を目指す、トライアルグループならではの好循環です。メーカーや卸の皆さんとの協働で、オープンイノベーション(組織の垣根を越えて知見や技術を持ち寄りビジネスの革新を図ること)も進めています。
EC(電子商取引)業界王者であるAmazon.comもAIを用いたショッピングカートを実店舗に投入しようをしています※。先行企業としてのわたしたちの実績や、ビジネスの方向性の正しさについて自信を新たにしているところです。

※2020年7月現在

わたしたちはITのちからで、流通業界に存在している年間46兆円※のムダ・ムラ・ムリの削減に継続して挑むとともに、お客様により良いお買い物体験をご提供し、「生活必需店ーなくてはならないお店」であり続けるよう邁進します。

※自社調査による ※内訳：広告費8兆円/営業コスト6兆円/リベート関連費14兆円/ロス関連11兆円/新製品開発コスト7兆円



株式会社Retail AI(東京都港区)
代表取締役社長　永田 洋幸

トライアルグループの技術開発を手動

Keywords

リテール AI

AIを用いた小売業のDX(デジタルトランスフォーメーション)。小売業のさまざまな工程 (決済、販売促進、在庫管理、発注など) に AI を導入しビジネスの変革を図ること。一般的に使用されることが多い「リテールテック」(小売業に情報技術を導入すること) に対し、より「AI活用」を強調している。

#小売 #AI #DX

スマートショッピングカート

トライアルグループが開発した、タブレットとバーコードリーダーを搭載したセルフレジ機能付きの買い物カート。トライアル専用プリペイドカードをスキャンすることでカートが使用できるようになり、お客様は商品のバーコードをスキャンしながらお買い物を進める。専用ゲートを通過する際にプリペイドカードのチャージ額からお買い上げ額が引かれ、レジ待ちをすることなくキャッシュレス決済が完了する。プリペイドカードに登録されたお客様の属性や購買履歴等のデータに基づき、クーポン・レシピの配信やレコメンド(商品のおすすめ)を行う、ショッパーマーケティング (商品の消費者ではなく、商品の購入者に対する販売促進活動) のツールでもある。一部の店頭などにおいては「レジカート」の愛称が使用されている場合もある。

#レジレス #キャッシュレス #ショッパーマーケティング #リテールメディア

リテールAIカメラ

トライアルグループが開発した、小売店での使用に特化した AI エンジン搭載カメラ。商品棚の監視やお客様の店内での動線分析をおこない、売場の最適化に寄与する。一例として、AI による商品棚の画像解析で欠品(商品ごとに設定された必要最低限量を下回ること) を検知すると、アラートをバックヤードに送り補充を促す機能を持つ。また、お客様の行動 (棚前で立ち止まったか、商品を手に取ったかなど) も把握する。お客様の個人情報保護のため、映像そのものは蓄積せず、分析結果のみをサーバーに送信する仕様になっている。

#動線分析 #人流解析 #売場の最適化 #欠品防止

MD-Link

店舗運営に伴い蓄積されるビッグデータ (在庫情報、購入履歴、個人を特定しない顧客属性情報など) を取引メーカーや卸と共有するためのシステム基盤 (トライアルグループが開発)。メーカーや卸は同システムを介してデータ抽出や分析をおこなえるほか、トライアル側からデータ活用のコンサルティングを受けることも可能。

#ビッグデータ

オペレーションドリブン

現場での実務を基点として、機器やサービスを設計 運用したり、意思決定をおこなったりする業務プロセスの在り方。例えば、現場の実情に即さないテクノロジーの過剰な高度化を避けるため、トライアルグループではIoT 機器の開発を「オペレーションドリブン」で一店頭での実際の運用を通じて得られた知見や課題、データをもとに一おこなっている。

お問い合わせ

メディアの方、一般のお客さまからのお問い合わせ先

株式会社トライアルカンパニー

https://www.trial-net.co.jp/contacts/

小売・卸・メーカーなどの方からのスマートショッピングカートや AIカメラについてのお問合せ先

株式会社 Retail AI

https://www.retail-ai.jp/contact/

Gallery

スマートショッピングカート、リテールAIカメラ、店舗外観、永田洋幸（Retail AI社）の画像をダウンロードいただけるWEBサイトです。これらの画像は、メディアの方が記事作成をされる際、事前の申請無く使用することができます。「利用規約」を必ずお読みください。



https://www.trial-net.co.jp/cp/mediakit_ssc_aicamera/gallery.html